

1. 春の特別企画展『萩野 昇の生きた時代』を開催しました。

4月26日から5月6日までの間、春の特別企画展として「萩野昇の生きた時代」を開催いたしました。開館3年目を迎え、初めて個人にスポットライトを当てた企画として実施いたしました。企画展では、生前萩野昇氏が往診に使っていた鞆や聴診器といった数々の愛用品や当時の貴重な写真など、約60点の展示を行いました。

特に、萩野昇氏がイタイイタイ病の原因がカドミウムであることを昭和36年に日本整形外科学会総会で発表する際の直筆の下書き原稿は、今回初めて一般に公開したものです。

また、開館記念日にあたる4月29日（昭和の日）には、カドミウムによる腎臓障害と骨軟化症との関係を病理学的に明らかにされた富山大学医学部6年の馬場逸人さんの研究発表と萩野昇氏にゆかりのお三方による鼎談を行いました。鼎談では、高木良信イタイイタイ病対策協議会副会長、青島恵子萩野病院院長、鏡森定信館長が、イタイイタイ病裁判の前後を中心に診療の様子や故人の人柄、当時の時代背景など思い出を交えて語り、ご功績を振り返りました。

当日は、萩野昇氏と裁判などを通じて親交のあった方々の参加も多く、当時の思い出やエピソードについて会場からも発言があり、鼎談はより一層盛り上がりを見せました。

今回の企画展では、原因究明と患者への献身的な治療を行った萩野昇氏の功績の紹介を通して、被害者の救済や環境被害の克服が多く先の努力の上にあることをあらためて確認し、今後二度と悲惨な公害を起こしてはいけないという思いを会場の皆様とともに強くいたしました。

このような個人を対象とした企画展は初めての試みでしたが、イタイイタイ病の教訓をしっかりと後世に伝えて行くために、今後とも工夫をこらした企画を行っていきたいと考えております。



研究発表の様子



企画展会場の様子



鼎談の様子



直筆原稿

2. 初めて『出前語り部』を行いました。

4月22日（火）滑川市の通所介護施設「お達者くらぶ中新」にて出前語り部（出張語り部講話）を行いました。デイサービスに通所する方々及び施設職員約18名の参加者の前で語り部の若林カズ子さんが講話されました。

若林さんのお婆さんがイタイイタイ病になり、闘病生活を送っておられた昭和30年代～40年代のお話には、参加者の方々は、時には涙しながら真剣に聞き入っておられました。出前語り部終了後のアンケートでは、公害の恐ろしさと環境・健康の大切さを再確認したとの回答がありました。

今回の出前語り部は、身体的な都合や交通手段の問題などから資料館に来館できない方々を対象に試行的に実施したのですが、今後申込状況や受入態勢等を勘案しながら本格実施ができないか検討していきたいと考えています。



出前語り部の様子